



幼小中連携の木育教育体系の構築

島根大学名誉教授 山下晃功
島根大学教育学部附属幼稚園副園長 太田 泉
島根大学教育学部附属義務教育学校教諭 森下博之

幼児教育、小学校教育、中学校教育と連携した木育（もくいく）学校教育の体系化を目指した研究です。その理念はSDGsであり、教科横断型の総合学習です。

幼児期教育では持続可能な循環型資源の樹木と木材の自然及び生活材料観察。小学校教育では木工工作を中心とした「木工ものづくり教育」と、草本植物（草花）と木本植物（樹木）の光合による地球温暖化ガス（CO₂）の自然界の仕組みを学ぶ。

中学校教育ではテクノロジー教育における、産業技術に関連した、資源エネルギー問題、工業化による地球温暖化を学習し、樹木・木材の持続循環型再生可能資源から製造される工業材料である「合板（ごうはん）」に関する材料の学習を行う。また、合板を工作材料とした木工ものづくり実習教育を中心とした教科横断型の総合木育教育体系の構築を実施しています。

